



泉だより

IZUMI・DAYORI



2022.9.1 VOL.44

発行元



社会福祉法人 泉学園
Social welfare corporation IZUMIGAKUEN

〒702-8026 岡山市南区浦安本町190番地
TEL (086) 264-2882

発行人 岡崎 イツヨ



一人ひとりの
みんな、
主人公

(巻頭言) 続ける、変わる、繋ぐ

ネイチャーファーム 管理者 藤原 博

平素より泉学園並びにネイチャーファームの事業活動にご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

泉学園と私を振り返ってみれば、短大を卒業してすぐ泉の園に入職し、何もかも初めての福祉の仕事が始まりました。開設したばかりの施設はまだ県道から敷地までが砂利道で、雨でくぼみ、水のたまった穴を利用者さんと一輪車で砂を運んでは埋める作業をしたことを今でも通勤時に懐かしく思い出すことがあります。それから10年して福祉工場いずみ(現在は就労継続支援A型事業所ネイチャーファーム)の開設に関わり現在に至ります。ネイチャーファームは、生き生きと長持ちする丈夫な花と一つ一つ心を込めて丁寧に焼き上げるパンを作り続け、地域の皆様に温かく見守られ、今年21年目を迎えました。

考えると私は泉学園にお世話になり今日まで本当に人との関わりに恵まれて来た様に思います。先輩方、同僚、後輩と呼べる仲間。そしていつの時もそばにいてくれる利用者さんやご家族の方々とのご縁の中で時には背中、時には一緒に汗をかきながら、また時には酒を飲みながら、福祉というものを教わりました。そしてまた、仕事以外の遊びの中でも様々な事を教わりました。

今、私が管理者として事業所はもとより事業所以外の場所でも様々な仕事に携わることが出来るのは、福祉を一から教えてくれた泉学園でのたくさんの人との出会いのおかげだと感じています。いつも誰かの為にひたむきに働く姿を見せていただく中で、自分にできることは何かと常に考えることができるようになったかと思っています。

私が泉学園で働くようになり30年が経ち、福祉の情勢はめまぐるしく変わりました。なりふり構わずがむしゃらに毎日を過ごし、日々学びながら頑張ってきましたが、ふと周りを見渡すと、時代の流れに対応できていない自分に気づかされることがあります。福祉の世界に希望を持つて頑張っている仲間には厳しい意見を突きつけられる事があります。そうした意見も真摯に受け止め、柔軟に対応していける自分になりたいと思っています。まだまだ未熟で至らない所ばかりの私が伝えられることは少ないですが、今まで培ってきた信念、良いものを追及していく思いは変わらず持ち続けたいと思います。

そして、その思いを分かちあってきた仲間と助け合いながら、これからも自分たちが目指す福祉事業を繋いでいければいいなと思っています。

泉だより編集委員がゆく——
「いちばんぼし」で聞いてみた



泉の園から車で約1時間。泉学園グループの北と東の端にある「星降る福祉の郷」にやってきました。今回お話を聞くのは、この赤磐の地でスタートした重度心身障害児（以下「重心」）向けの療育施設「いちばんぼし」の児童発達支援管理責任者（以下「児発管」）、黒井 結（くろい ゆい）さん。泉学園が地域でも数少ない重心の方向けの、しかも児童の事業所を運営しているなんて、興味を持たずにはられない……というところで、お話を伺ってきました。

黒井さん自身は泉学園に入職して12年目。もともとはティセセンターなすな配属され10年ほど勤務され、いちばんぼしの児発管になったとの



インタビューに
答える
黒井 結さん

こと。さつそく気になることを聞いてみます。

●そもそも、泉学園に入職するきっかけは？

（黒井さん以下「黒」）元々は保育園の保育士で働きたかったんです。だけど、保育実習に行ったときにグレイ（診断はつかないが、発達障害の傾向はある）のお子さんがすごくたくさんいたんです。この子たちってどういうふうにな大人になっていくんだろう？それを見ておけば自分の支援が変わるかもしれない……ちょっと勉強して保育園行こうかなあと思ったのがきっかけで泉学園に入りました。

●そんな中、重心の事業所に配属。実際に働いてみて、どうでしたか？

黒 辞めようかなと思っていました。でも、利用者の方がまっさらなんです。すごく綺麗な心なんだなあって思えてきて、そこから楽しくなりました。利用者さんは裏も表もないというか、楽しかったら「楽しい！」と表現してくれるし、「あなたが好きだよ♡」って表現してくれるし、「これは嫌なんだ！」も表現してくれる。自分の気持ちをストレートに出してくれて

いる感じが私の中ではして。うまく言えないけど、何かで返事をしてくれていることが分かり始めたときから、すつこく面白くなってきました。

●なぜまでの支援に楽しさを感じている黒井さんに、児童の療育をやってほしいと依頼があった。しかも重心。そもそも子どもと関わった経験が「保育実習、あと親戚の子」くらい黒井さん、どんな気持ちだったのでしょうか？

黒「療育」って何？というところからのスタートでした。調べてみたら発達障害の療育はたくさんあるんですよ。でも重心の児童の療育はなかなかなくて、私じゃ無理なんじゃないかなって不安になっていました。

●そんな中、見学に行った事業所の管理責任者に「保育を中心にする中で、療育を合わせてやっている。」と言われました。その言葉で、療育をしないと！という気持ちが前に出すぎて、難しく考えすぎていたのかな……と気付くことができて。続けてその管理責任さんが「楽しくないとやってくれないじゃん」と言われた言葉に「そうよな！」と思って、保育士の時に習った教科書とかを掘り出してきて読みました。ちなみに実習の時に作ったパネルシアターを、今でも使っているんです。

●あれこれ試行錯誤しているうちに、いちばんぼしが開所になったと思いますが、実際にやってみて、どうでしたか？



黒 やってみて：難しかったです。基本的に活動などを自分ひとりで考えてきたので、本当にこれでいいのか？そういう不安は常に感じてました。ただ、子どもたちのできるこ

とが増えたりとか、言葉まではいかないけど発声があったりとかっていう姿を見て、「大丈夫かな」と自分で言い聞かせながらやってきました。あと、重心の大人の支援を経験した分、「自分で決める、選択する」とか、「どう訴えるか、サインを出すか」と言った表出の部分が伸びてほしい、彼らが抱える生きづらさの部分をどうにか減らして大人になった時に何が必要なのか、それを考えて支援をすることが結構あるかな。

●離職率は低い業界。そんな中、黒井さんが仕事を続けてくれた理由

黒 みなさんの魅力が半端ないんですよ。いちばんぼしに来て思うんですが、なぜなの人は「おもしろい」んですよ。いちばんぼしの子は「かわいい」。なぜなの人はその人が確立されていて、「私は私」という形ではっきりしている。いちばんぼしの子は色々な色になる。両方楽しいなあと思っています。

●これからのいちばんぼしについて思うこと。目標など

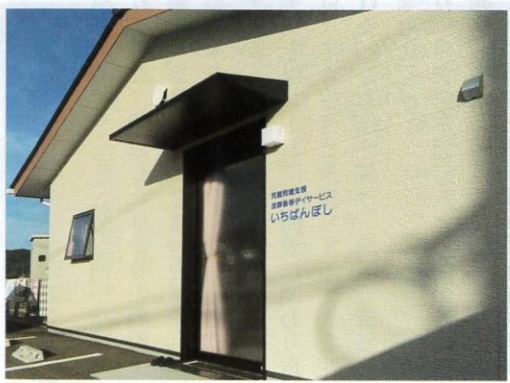
黒 これから先何年やっても、たぶん変わらないんかなと思うんです。大人になった時、もちろんどの時期でも出てくるんですけど、その時期での困り感が軽減すること。自分をしっかり出していけるようにすること。これらのことについて自分たちが何ができるんだろう？と考える姿勢は忘れてはいけないと思っています。自己満足で終わらないようにするというか。結果として、それぞれがそれぞれの力で自立していけるようになってきたらいいと思います。大人に

なった時のイメージを持ちながら支援することはいちばんぼしの強みとしてやっていけたらと思います。

偶然の出会いから始まったティセセンターなすなでの日々。その中で重心の利用者さんの人となりや、重心の方との関わりに魅力を感じ、支援をしていくなかで、気付けば新たなステージに立っていた黒井さん。本文では割愛しましたが、経営のことや、事業所としての支援の方向性をどうスタッフさんと合わせていくか……といった風に、いち支援者としての面だけではなく、事業を継続していく運営側としてのお話にもなってきました。

今回はコロナ禍ということもあり、夕方のインタビューになりました。次回はずいぶん、子どもたちがいる時間に伺いたいものです！

（香川 正憲）



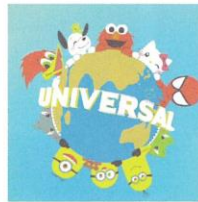
『デイセンター ならずな』

『ならずな de USJ』

コロナ禍で外出が難しい日が続いています。しかし、「気分だけでも旅行を楽しもう！」ということ。昨年度の「ハワイ」「デイズニールランド」に続く第3弾、ならずなが一日限りで某有名テーマパークに変身しました。玄関では人気キャラクター（の絵）がお出迎え。プロジェクターで壁一面に映し出されたアトラクションを体験したり、キャラクターグッズを販売するミニショップでお買い物を楽しんだり。今回は館内に隠されたイースターエッグを探し出し、中に入



っていた番号でくじ引きもありました。このイベントを楽しむポイントは何といっても「想像力」。当日の館内の飾りつけや音楽、香りなどはもちろんですが、何日目前から「どんな服を着て行こうかな」「天気はどうか」「誰にお土産を買おうかな」と旅行に向けた会話で気分は盛り上がり。次はどこかと期待してくださっている方もいらっしゃるようです。コロナが終息しても続けていきたいと思っています。



(廣田 三奈)



『障がい者 デイセンター さくら』

『なんじかないアート展』

生活介護グループ(たんぼぼ)

さくらの生活介護グループ(たんぼぼ)では、ご利用者の得意なことを活かし創作活動に取り組んでいます。例年では地域の公民館での展示をしているのですが、今年はコロナ禍ということもあり、残念ながら中止に。しかし、皆さんの作品を見ていただきたく、事業所内に大きく展示をさせていただきました。手のひらにおさまるかわいい一輪挿しの花瓶から壁いっぱい迫力のある作品まで、さまざまな力作が出来上がっていました。作品一つひとつに、それぞれの方の個性や発想が光っていました☆

(井本)



令和3年度 社会福祉法人泉学園 決算報告

法人単位貸借対照表

令和4年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	365,684,615	流動負債	112,581,754
固定資産	1,375,442,051	固定負債	177,174,455
基本財産	1,026,119,566	負債の部合計	289,756,209
その他の固定資産	349,322,485		
		純資産の部	
		基本金	652,954,058
		国庫補助金等特別積立金	330,264,512
		その他の積立金	154,000,000
		次期繰越活動増減差額	314,151,887
		(うち当期活動増減差額)	1,232,710
		純資産の部合計	1,451,370,457
資産の部合計	1,741,126,666	負債及び純資産の部合計	1,741,126,666

法人単位事業活動計算書

(自) 令和3年4月1日
(至) 令和4年3月31日 (単位:円)

科目	決算額
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計(1)	1,132,113,103
サービス活動費用計(2)	1,144,196,534
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-12,083,431
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計(4)	15,230,791
サービス活動外費用計(5)	4,318,367
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	10,912,424
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-1,171,007
特別増減の部	
特別収益計(8)	4,099,417
特別費用計(9)	1,695,700
特別増減差額(10)=(8)-(9)	2,403,717
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	1,232,710
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額(12)	312,919,177
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	314,151,887
基本金取崩額(14)	-
その他の積立金取崩額(15)	-
その他の積立金積立額(16)	-
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	314,151,887

法人単位資金収支計算書

(自) 令和3年4月1日
(至) 令和4年3月31日 (単位:円)

科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計(1)	1,147,343,894
事業活動支出計(2)	1,110,690,281
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	36,653,613
施設整備等による収支	
施設整備等収入計(4)	2,296,328
施設整備等支出計(5)	24,472,353
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-22,176,025
その他の活動による収支	
その他の活動収入計(7)	7,675,365
その他の活動支出計(8)	13,901,285
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-6,225,920
予備費支出(10)	-
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	8,251,668
前期末支払資金残高(12)	306,520,305
当期末支払資金残高(11)+(12)	314,771,973

令和3年度 泉学園 事業報告

■主な実施事業

- 岡山県共同募金会の配分を受け、ワークショップちどり車両(ハイエース)購入。
- 新採用職員研修、新任職員フォローアップ研修、経験年数別研修、事業所間交流研修の実施。

■法人役員会(理事会)・評議員会の開催

- 令和三年四月三十日 理事会実施(評議員選任解任委員の選任、評議員候補者の選定等審議)。
- 令和三年六月十日 理事会実施(書面・令和二年度事業報告、決算報告、定款の変更、理事・監事候補者の選定等審議)。
- 令和三年六月二十五日 評議員会実施(書面・令和二年度事業報告、決算報告、定款の変更、理事・監事の選任審議)。
- 令和三年十一月十五日 理事会実施(令和三年度上半期現況報告、補正予算等審議)。
- 令和三年十一月二十五日 評議員会実施(令和三年度上半期現況報告、補正予算審議)。
- 令和四年三月十六日 理事会実施(令和三年度補正予算、令和四年度事業計画、当初予算等審議)。
- 令和四年三月二十五日 評議員会実施(書面・令和三年度補正予算、令和四年度事業計画、当初予算審議)。



令和3年度 寄附(物品・寄附金)一覧

法人並びに各事業所へのご寄附ご寄贈ありがとうございます(順不同・敬称略)

●泉学園

- 藤原厚美・藤原愛子・京林裕子・福本 薫・岡崎イツヨ

●泉の園

- 澤田昭勝・中野隆賀・相沢美津子・藤本信子・泉の園家族会・公益信託 棍谷福祉基金・最上稲荷総本山奉賛会・株式会社 岡山丸果

●桑野ワークプラザ

- 桑野フレンドリーハウス 小川 守・桑野ふれあい家族会・山陽新聞社会事業団

●障がい者デイセンターさくら

- 橋本正道・武田亮宥・岡崎イツヨ・障がい者デイセンターさくら家族会

●デイセンターなすな

- 海野武子・岡山ヤクルト販売株式会社

●デイセンターなすな赤磐

- 高地好二・為広明歩・藤原真弓・福田博明・名越 宗一・株式会社そらい代表取締役 高塚浩史・なすな瀬戸家族会

●のどか

- 福田博明・徳永孝子

- ネイチャーファーム 吉田 慶一

「泉の園の夏のひととき」

今年も夏の恒例行事となっているスイカ割り（8月5日）とミニ夏祭り（8月12日）を開催しました。



まずはスイカ割りの紹介です。入所されている方にとっては、真夏の恒例行事となっているスイカ割り大会ですが、当日は新型コロナウイルス感染防止の為、マスクを着用してもらい、一人ひとりがソーシャルディスタンスを意識しての参加となりました。ビーチボールのスイカ目がけてバットを振りおろし、スイカに当たった瞬間に歓声が上がりました。例年だと盛り上がる所ですが、そこはコロナ禍での行事という事で、大きな声を出すのは控えてもらいながら応援してもらい、ビーチボールのスイカを叩いてもらうようにしました。



最後はみんなで大きくて甘い本物のスイカをいただきました。

続いてはミニ夏祭りの紹介です。泉の園へ通所されている利用者9名でミニ夏祭りを開催しました。屋台に見立てたスーパースポーツボールすくいやヨーヨー釣り、最後はボールを投げて景品をゲットするゲームを行いました。上手くスーパースポーツボールがすくえる方は10個以上すくう事ができていました。最後はジュースを凍らせて、かき氷を作りみんなで食べました。新型コロナウイルスが広がり続けている今、通常の夏の行事やイベントは開催が難しい状況ですが、これからもコロナに負けず、利用者の皆さんの笑顔が少しでも増えるような行事を開催できればと思っています。

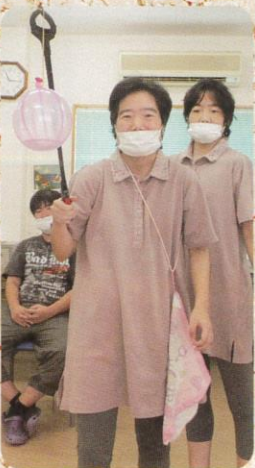
(林)



楽しかった「夏のひととき」の様子 etc.



スイカを探して いざ出発!!



屋台ゲームはドキドキしながら見事にゲット!!

四年ぶりのサーカス招待

ちどり・桑野ワークプラザ・泉の園

木下サーカス岡山公演の招待を受け、ちどり・桑野ワークプラザ・泉の園の利用者が参加しました。コロナ禍でのサーカス開催ということで、事業所によっては参加を断念せざるを得ない所もありましたが、感染対策をしっかりと行い、利用者数もついで参加しました。参加した利用者の皆さんは久しぶりの大きな赤いテントを目にして、とても興奮した様子でした。場内ではバイクショーを始めとした豪快なアトラクション、ピエロのショータイム、しまうまやホワイトライオン等の動物による迫力満点のショーを楽しみました。



※左記はサーカス招待に参加した桑野・ちどり・泉の園の利用者の皆様の感想です。

- しまうまやホワイトタイガーといった動物が沢山出てきて、嬉しかった。
- 「決死の空中大車輪」では、同じ人間がグルグルと何度も回るのを見て、びっくりして驚きました。
- 椅子を積み重ねたショーでは、ハラハラしたけど、楽しかった。
- 大車輪のショーがかっこ良かった。
- ピエロが良かった。
- バイクがぐるぐる回ったりしてかっこよかった。

当日はあいにくの天気だった事業所もありましたが、テントの中は最



後まで熱気あふれるステージが開催され、楽しむ事ができました。四年後のサーカス招待では新型コロナウイルスもおさまり、以前のようにサーカス観戦でみんなが盛り上がる事ができればと願っています。この度、招待をしてくださいました山陽新聞社様をはじめご協力頂きました関係機関の皆様、本当にありがとうございます。
(石井)

新任職員の紹介



泉の園 生活支援員
よしだ しょういちろう
吉田 祥一朗
(令和4年4月1日)

愛ある支援員になれるよう精進したいと思えます。



泉の園 生活支援員
はたなか けんた
幡中 健太
(令和4年4月1日)

コミュニケーションを大切にしながら、利用者様のどんな声にも答えられる職員になりたいです。



ネイチャーファーム 事務員
なかむら ようこ
中村 容子
(令和4年3月1日)

頑張りますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



桑野フレンドリーハウス 生活支援員
いだ ゆみほ
飯田 悠光帆
(令和4年7月1日)

利用者の方々との信頼関係を大事にコツコツと頑張りたいです。



桑野フレンドリーハウス 運転手
しばた しょうた
柴田 満
(令和4年4月4日)

安全運転を第一にがんばります。よろしくお願ひ致します。



障がい者デイセンター さくら(つみ木配属)
なかむら きみよ
中村 君代
(令和4年6月1日)

利用者の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。



デイセンターなすな 生活支援員
かわばた あきとし
川端 旺登史
(令和4年4月1日)

コロナに負けず利用者の皆様と楽しく生活できるよう頑張ります。



デイセンターなすな 生活支援員
あいとう あやか
齋藤 文香
(令和4年4月1日)

利用者様に寄り添った支援ができるよう日々努力します。



デイセンターなすな 赤磐 調理員
にしざき みみ
西崎 美智
(令和4年6月1日)

毎日おいしい食事を作ります。

